銅・アルミ市況見通し

7月

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

銅

5月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で7・7%増の5万3400㌧。29カ月ぶりにプラスに転じた。14品目中11品目が前年同月実績を上回った。5月の銅電線出荷量（推定値）は同プラス6・3%増の4万8200㌧で、うち国内が同11・4%増、輸出が同3・4%減だった。

銅輸出は、電気銅が同6・3%減の5万7046㌧、銅スクラップが同6・2%減の2万8788㌧。

銅輸入は、電気銅が同77・2%減の250㌧、銅スクラップが同36・7%増の1万3145㌧だった。

7月銅市況予想レンジ		
LME銅セツルメント	9500～10500㌦	横ばい
電気銅建値	156～177万円	強い
為替（1㌦）	160～165円（1カ月間TTM）	円安

銅スクラップ景況予想

6月の電気銅建値は月初の162万円から一時157万円へ下落した。流通（一次問屋）の6月在庫は、伸銅品の生産減および発生減により品薄となった。需給は引き締まった。伸銅品生産量は29カ月ぶりに回復、今後に期待したい。

LME銅・為替予想

今月は「米・FRB（連邦準備制度理事会）の金融政策」と「日銀の金融政策」に左右される。「米・FRBの金融政策」では、米・6月の非製造業（サービス業）景況感指数が48・8と5月（53・8）から低下し、ダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想（52・8）を下回った。2カ月ぶりに好不況の境目である50も割り込んだ。また6月のADP全米雇用リポートでは、非農業部門の雇用者数が前月比で15万人増と、市場予想（16万人増）を下回ったことから、利下げ方向へ潮目が変わる可能性がある。

「日銀の金融政策」では、財務省の神田真人財務官が「行き過ぎた動きには必要な対応を取っていく」と投機的な動きをけん制した。ただ、現在1㌦＝162円付近と防衛ラインとされる160円をあっさり割り込んだ。次の防衛ライン165円まではいったん落ちる可能性があると見ている。

これらのことから160～165円のレンジ内での動きになると予想している。

アルミ

5月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同1・2%増の14万329㌧。3カ月ぶりの前年同月比プラスとなった。生産量は板類が同2・1%増の9万380㌧、押出類が同0・4%減の4万9949㌧だった。

5月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同5・8%増の5万8633㌧（3カ月ぶりのプラス）。出荷は同8・2%増の6万235㌧（5カ月ぶりのプラス）だった。

輸出はアルミ新地金が同6・6%減の225㌧、アルミ二次合金が同73・7%増の761㌧、アルミスクラップが同14%減の2万8768㌧、アルミ缶が同5・7%減の5296㌧。

輸入はアルミ新地金が同5・8%増の10万1579㌧、アルミ二次合金が7・6%減の7万8961㌧、アルミスクラップが同6・9%増の1033㌧、アルミ合金スクラップが同30%減の6658㌧だった。

7月アルミ市況予想レンジ		
LMEアルミ現物後場買い	2400～2600㌦（現物後場買い）	弱い
スクラップ	マイナス5～マイナス10円（前月最終価格より）	弱い

アルミスクラップ景況予想

LME価格は2677㌦から2465・5㌦台と下落傾向だった。中国への輸出低迷から、流通（一次問屋）の在庫は増加が予想される。需要は、前月から続くダイハツ・トヨタ問題や、中国への輸出低迷で、飽和状態が見込まれる。